打振て進行く時方を指なけれ〳〵進て難敵の三騎へ
今剣を以て馳入て雪を幸に破竹打倒せば
面を向ふ者を指で引きさいの大勢雪〳〵にて
分散を変る山形野の中より高松園を問老翁と名
乗て小栗海の膝を以洗華の大福童て二尺三寸乃
太刀を世世指いる黒羽の矢、負ひ合羽の笠を猪首に
着なし逢義藤の弓持る馬の鞍のもく這〳〵に金覆
輪の鞍置て乗〳〵けるが自今討取る敵の首こう
洗の先に置き中ゆに持せて能登守が陣を尋ねて
展〳〵けるが行ひ遊びたりしの拳動弓矢取〳〵組て勝
負を決せんとて一文字に寄せ〳〵能登守吃々
として大勢の中より一人進し地蔵は山法師の望の
ごとく指を打て下と打ちければ魚間えとしけも
ど頸小胴く打込れ下に倒る打すてられける法勝
此勢を避易して敵を川退く所を又六尺棒の大
の男烏帽子甲に黒毛の鎧着て雫毛の一つ目の
ゆて乗〳〵けるが五尺余の長刀を横て足とける大音声
名乗て打て掛る其勢あるを横て足とける大音声